

前略

貴社発行週刊朝日六月二十号を拜讀させて戴きました。その中記載事項中「ナイロン・ザイル事件」といふ見出しで岩稜舎の若山氏の遭難模様を讀まして戴いた伏存んですが、登山等全然やゝ大事のな、私等登山者について如何なるルートがよいか等全然わからう苦がありませんが、穴ザイルがナイロン製であつたといふ事に対して、尚ほ不安を感じてゐただけに、特に右にこの記事に力を入れて讀んだ伏存ですが、尚ほ私等が不安といふ事とは一体何であつたは別紙に記載致し、また通りであります。

即ち宣傳と比べて、こんなにも弱くもつてあつたといふ事が、実態として私の懐裏にミヅリつてゐるからです。そこで私の職業上特に船、申、船にミュータロープを使用してゐるまのあたりに見又、又別の語で色々な角度から見討つて何とかがミュータロープの利便を利用して事故を最少限に防ぎ、如何に実績をあげようか、探つて見ました。私が私としてはこんな結果が出来る。最期に残つたものは、這僱等如何に信用のあけたものであつたか、事が残つた伏存なんです。だがこのロープの利便は今迄のロープに見られなかつた。云つてかまう、一は私等の洋服と洋服に等しい程のスポーキーな美において、安着で感じてゐる。伏存です。この安着がすれば、これ、二度とこの事故は起すまい、そしてよりナイロンロープが出来るよ、と、結構なわびてゐる。伏存です。私等は職業上からこのナイロンロープを、兼、兼、兼、兼として、これは、兼、兼、兼、兼として使用するよ、力

又研だして色々の角度から見たり何とこのロープの利便を利用して事故を最少限に防ぎ
如分に実積をあげようか探して見ましたか私としてはこんな結果が出来最期に残ったもの
は這傳等如何に信用のあけるものであつたか事が残ったはなすです。だがこのロープの
利便は今のロープに見ればなかつた。云ひかえれば私達の洋服と洋服に等しい程の
スプリーカーを裏において「安着」を感してぬ。決してこの「安着」がなければこそ二度とこの
事故は起すまいとよりよりナリロープが出来よとて待ちわびてぬ。次がです
私達は職業上からこのナイロンのロープを「兼用」索として使はば使索として使用しよよ力
は相当大きいのでこのゲイルと同一角度から見よよか悪いかわかりませんが兎に角ミミリーた
軍柄も他では起つたかといふ事でお知らせ致し再びミミリー大事件が起つたがに研究
の材料にでもなつて戴ければと思ひあつたか筆を止らうと戴きまゝに
つては三手能て山を稜念におぼけて戴ければ幸ひと思ひ小次でございませう
又何がよいこのロープについてのデータでも出たら私ども知りたく思つてぬ。一讀者
でございませう。どうか御面当な事で恐縮ですがお家の生命、船隻、船の生命の事に
も今後御社が中心になつてこの問題で御方々事故としてを社会的な問題としても結果を録し
戴くかお持ち致すと共に、全然知りませんが岩稜念の方々によろしくいふ岩稜念の御代
へ展せんまりお祈りしておます。

5
10
15
20
私筆にて申し候りません又職業上今度も答へさせて戴きます。

②

飛船内の終納面積で従来のロープと異つて特に小面積ですむと云ふから價格が
 高にかからず利用され始めたいであらうがこの終納面積の小ささ。草が実はくせ
 ものでロープをコイルにする。そして二十回コイルした場合は二十のヨリが出来る。そして
 今度使用する時にこのヨリにして一箇所でもキックがあった場合はその場所からしても
 簡単に切斷す。草はこの神戸老曳船の曳索で実験してみました。又、このヨリによつて
 曳索でひっぱった場合。俗に我々は「コブ」と稱してゐるがこのコブが索のあちらこちら
 に出る。次回の使用にあつては見事な切斷され。今このコブについては我々も研中
 にはあつた。一応次の表に推定してゐる。即ち曳索に當つてロープの構成だ。三本のストラン
 ドが同時に同等の力がかければ向題ではな。が軟柔性能からこのストランドのよりのケーブも
 ゆよみがあつた場合。この三本のうち一本にのみ力がかけるとこの二本は力が作用してゐる。草
 も考へられ。草の部分のみはこの一本のストランドの力にたよつてゐると小規模現象が起り
 これに依つてロープがのびぢみよ。莫でこの一本のストランドの力がかけては力がその部分
 のストランドが伸びよ。だが作業が終り力が加うた。なつた時この伸びたストランドが
 もとの形に縮んでしまふ。よ。がえにはロープ自体のよりの。他の二本のストランドは
 さ。手くれん。力が伸びた儘になつてこれが次の仕事の時切斷の大きな原因とな
 る。この切角高。金で出して送つたロープも何の故に立たぬ。よ。が。機マイナスになつ
 て。草は草。実。よ。

5

10

15

20

即ち熱に弱い実例として飛艇でウィンドミスのドラムにワイロープを5回巻くも巻きつけて
 何屯と力大なる力でのワイロープはもたせ飛艇が岸壁に着けよがな場合、飛艇の対岸壁姿勢等に
 よるこのロープにたがっての力と力の方向と飛艇自体の力の方向とワイロンスがとれをなす。飛艇が
 左舷がよむよ。この左舷麻索をらば麻索の構成上摩擦の途くどうにもつかりとくつて
 ドラムが空轉する事なく、持ちこたえて力のバランス並に方向を同一にする。働きがワイロンス索
 はこのドラムに巻きまきこむもす。つてドラムが空轉すよ。そのこの空轉す。時は綫をたが大
 きな力のバランスがとれをなす。時に空轉はよ。摩擦熱は相当高熱になつてくる。だから「回
 ズル」といふと大げさではなすがワイロンスのストランドの1/3位が切れ、切れ、人になつて結局は熱の
 「差」といふ状態になる。のではな、かと思ふ。

ワイロンスのロープは横の力は強が縦の力に對しては極めて弱い。従つてワイロンス
 作業上よることはならぬ。結束、麻のノットに對しては全然ワイロンスの性能は零に近い。

即ち私の意見でこれが本當である。かどうかは解らな。がワイロンスのもの化は方程全
 から粒子の結合状態は横即ちワイロンスの真直に引張るガに對しては麻索等代でな
 が縦に弱。よ。今假りにワイロンスノット(飛艇はもせ)結びと俗にこめが(等大扭じに
 の飛艇に於ても使用す)が右結束を行つてこめを曳航して力をおよせしむ。必ずワイ
 結び目から切れ。普通麻索等で実験して見ると結び目から切れる事は絶對とい
 つてよ。程なく、その結び目の近くを又は全然無関係の中附近から切斷す。

5

10

15

20

この事は全然登山の経験のある私等がイルカどの様に使用されるのかは
この事等知らなから若しこうしたノリで存らなくては全然登山
はこのナイロンのロープ等（笑）は危険な品物といはなくてはならぬ
と心得る

諸君の前後に方々で恐縮ながら摩擦の処で無でなく漁網に
すが中一にげると後に水の中着網にかかると一番大の方網が
ナイロンの利点から大部使用される等ですが結果は値段が
高の上に所産より早く切れやすくなる（於岩和）
これはどういふ事であらうかと云ふと中着網にして最後に
網を絞って船内に引揚げようとするがこれに引つくと網の
目のロープとの摩擦がありやはりこれが原因である事も明か
ておます

ニ旅にA、Bとナイロンの欠点（一）より大がこいで高
いとして高き場合利点（二）よりも知つておこ
必要がある（私的意見で恐縮です）今迄のナイロンの
販賣は非常に利点のみにて追究し過ぎたからである
戦後には合生セメントを継承し網に付いた更にコスト
高と如何に販賣ルートの吸調にめまかに引ける
と云ふ事がある（三）またその宣傳は更に盛ん
な程であるが（四）製造が日浅い事と
の結果とが（五）まが完全に出ま
上つておこ（六）如何に問題がある
（七）もう一つは（八）ナイロンの
劣化は如何に知識とが（九）まが
（十）まが（十一）（十二）（十三）（十四）（十五）（十六）（十七）（十八）（十九）（二十）

どころも知つておこし憂があらはれずが(私的意見で恐縮です)今迄のナクロニ関係の販賣は
 非常に利便のせて運送一途が太きものが多分にある。即ち戦後化は合性せいで従来
 弊害に對抗し更にコスト高で如何に販売ルートに吸調とのせよかについては並りな
 弊害がある。等でもこの宣傳は更に驚く程である。がこの製造が日浅い事との結果といか
 まが完全に出ま上つていながら如何に問題があるか。もう一つはミラー大化学的知識といふものが
 まがく一般国民に普及してない事。これに對して研究的態度に出る事が出来な
 ぬ。其結局消費者はその宣傳のものを信用してはならない。一般現状ではなからうが。
 そうするとこの宣傳は、事に對して生命と取引をなすはならぬ。製品と對して大に社会的
 問題が如何に残されてくる。

左を右の方の對しては全くお気毒な事ではあります。が私共共通した消費者の責から
 申し上げて見よ。

一、宣傳について何が、片手落ちの必がなかつたか、どうか。

昔、この宣傳通りならば、事故は起きなかつた筈である。又商業上の宣傳が、産
 傳は如何にして消費者の眼を耳とこまかすものであつたか、どうか。この宣傳の上
 手平に、
 事に其付いてきたら、商業道徳は何論の事。科本、文化の発展等、考へられな
 事になつてく。よき(正)と我々の生活の上と利用されて、いんを、の発展が、事
 て宣傳ならば、何の爲の人数の生活で、よか全く無意味に、

2. 教授の発言がどういうものであったか記憶がなめで恐縮だが、田中朝日といふ関係
いのつて、いふ言葉として見ても何かそのツッ納得いかね。其がよい。

即ち教授の言が私に在り程すの二要素は強、この強は或る一定の条件に於てのみ強、といふ
事が云々のものであつて、これと直ちに對する条件に適用してしまつた事は、事教授といふ
立場に立一人の発言ではな、それに加えて結果が百年二百年に等しいは全く教授と
して不見識であり、思ふ、この程の代々の進歩にすぎたカこのエネルギー工業代、実取が目前
に控えての今日、又我々の消費者が、実際のデータを出してゐる今日、結果をいふに失はま
つてゐる、果して世界の競争に日本が伍して、いけよかと云ふ事です。

こゝろ大見地を承は、この向題が告誡され、されなにかかぬら、失つた一に行はなくては
ならぬ事は、この「ロップ」であつても、なされた方に対して如何に我々はあつて、時が失つ
か、ロップをいふを、言はず、いふが、完全な不爲、これと真にいふに、宣傳、信用といふ言葉が
出てゐると私は思ひます。

そこでこの向題の真実であるか、唐雞の原因が「ロップ」にあるか、否かといふ事では、元座の
業では、關係がよ、と断言は出来ません、それは、現場を見た、決してはな、又「ロップ」の百体の切斷
箇所を調べた、快でもないので、だが、ミラーの事故と起、場、危険性を、ミラーの、大「ロップ」で
ある事は、私としては、申し上げられ、誤です、あり、私達は、この際、この「ロップ」の、缺失、利、実、を
まず、また、世、間、に、は、ち、ま、け、て、消、費、者、の、批、判、と、提、取、を、し、て、ま、ら、し、ま、す、が、先、要、で、は、な、ら、ず、で、せ、う、が、

